

# ダンスワークショップにおける指導者と参加者の 関係性が参加者の満足度に及ぼす影響

－振付家によるワークショップ型アウトリーチを事例に－

眞崎 雅子・金 愛慶\*・唐津 絵理\*\*

## The Effect of the Relationship between the Instructor and Participants On the Satisfaction Level of Participants at a Dance Workshop － A Case Study of Outreach Workshop －

Masako MASAKI, Aekyoung KIM\*, Eri KARATSU\*\*

### はじめに

芸術文化におけるアウトリーチ活動<sup>1, 2)</sup>は、事業の対象や形態など多種多様で、その内容も多岐に渡る。近年、音楽や舞踊のアーティストを学校や福祉施設などに派遣してワークショップ型の事業を行うアウトリーチは、全国各地に定着しつつある。こうした試みは、文化・芸術の普及に効果をもたらし、教育や福祉の分野においても、アウトリーチの新たな可能性を見出し、更なる拡充へと向かうことが期待される<sup>3)</sup>。

2008年より1年間、財団法人地域創造が実施したアウトリーチに関するアンケート調査<sup>4)</sup>によると、アウトリーチが行われた学校現場において、児童・生徒の満足度は9割以上と極めて高くその多くが継続を希望しており、教員からも「子ども達がナマの芸術を体験できる喜びを味わえる」と評価されている<sup>3)</sup>。また参加者の「感受性」「表現力」「想像力」「コミュニケーション能力」等の能力の向上が期待できるとの報告もある<sup>4)</sup>。

2010年には、文部科学省が、芸術表現を通じたコミュニケーション能力の育成に資する「芸術表現体験事業」<sup>5)</sup>を開始するなど、徐々に教育と文化芸術の連携を支援する体制が国内で整えられつつあるが、その一方で芸術家やコーディネーターの不足、文化施設などの企画側と学校などの受け入れ側との情報共有不足、アウトリーチの成果が検証される機会が乏しいなど課題も散見されており、アウトリーチ活動が形骸化することへの懸念も指摘されている<sup>1, 4)</sup>。今後、アウトリーチの実施を更に拡充し、普及を促進させるためにも多様な観点からの分析や検証を行うことが重要である。

本研究は、平成13年12月、劇場（愛知芸術文化センター）との共催により開催された第65回舞踊学会大会「劇場におけるアウトリーチ～ダンス・プログラムの可能性～」<sup>6)</sup>にスタッフとして関与した筆者らが、大会企画の中で実施されたダンスワークショップ（以下DW）における指導者と参加者の関係性に注目し調査を行った。この企画は、学会大会に先立って海外より招聘した振付家ジェコ・シオンボ氏<sup>7)</sup>による、高校生のダンス部員30名を対象とした長期ワークショップ型のアウトリーチ<sup>8)</sup>である。

\* 名古屋学院大学スポーツ健康学部、\*\* 愛知県芸術劇場シニアプロデューサー

高校の運動部における生徒と指導者の関係についてはこれまでにいくつかの知見を得ており、松井<sup>9)</sup>は、高校運動部における生徒と指導者との関係において、双方の親和的信頼関係が高まることにより、間接的に生徒の内発的動機づけに寄与すると述べている。今回のDWにおいては、振付家による振付指導が中心となるため、指導者と参加者の間では身体を媒介とした、お互いのリズムやイメージを伝え合う協働作業が行われる。

そこで、本研究では、DWにおける指導者と参加者との関係性が、DWを通してどのように変化するのか、また両者の関係性が参加者のDWに対する満足度にどのような影響を及ぼしているのか、以上の2点について検証することを目的とする。

## 対象と方法

### 1 対象

平成13年10月24日より12月6日までの間、愛知芸術文化センターと舞踊学会との共催により実施された第65回舞踊学会大会のためのアウトリーチ活動において協力の得られた名古屋市内にある私立の高等学校ダンス部員の1年生および2年生、30名を対象とした。対象者には、回答により不利益を被ることはないこと、また、得られたデータは、結果が統計的に処理され、個人のプライバシーが公開されることがないことを説明し、研究への協力について同意の意思を書面で確認し、参加者全員からの同意が得られた。

### 2 調査方法

同対象に対して、海外より来日した振付家によるDWを実施し、振付されたダンス作品のショーイングはDW最終日の翌日に行われた。DWの詳細なスケジュールについては、表1を参照されたい。21回行われたDWの6回目(11/12)および21回目(12/6)の2回にわたり、練習の休憩時もしくは終了後に質問紙調査を実施した。なお、実施日に欠席、または遅刻した学生については、後日、個別に回答を得た。

### 3 質問紙

質問紙は、参加者に対し「指導者との関係性」と「DWに対する満足度」を問う内容で構成されその内容は次の通りである。

#### 1) 指導者との関係性についての質問紙

コミュニケーションに関する文献<sup>11, 12)</sup>を参考に、筆者らが振付家と踊り手との関係性を示すと考えられる項目を作成し、項目内容が妥当であるかどうかを舞踊経験者3名に確認を行い、更なる表現の修正を加えた項目で構成した。質問項目11問で、回答は1の〈当てはまらない〉

表1 DWのスケジュール

WS回数	日程	時間帯	WSの内容
第1回	10月24日	16:00~19:30	高校生ダンス部員による全国大会入賞作品紹介。 ジェコ氏は高校生のダンス技術とレベルをチェック。
第2回	10月25日	16:00~19:30	振付・指導及び即興表現の練習。俊敏さや筋力を試すゲーム
第3回	10月28日	17:30~19:30	振付・指導及び即興表現の練習。
第4回	10月31日	16:00~19:30	振付・指導及び即興表現の練習。
第5回	11月1日	16:00~19:30	振付・指導・即興練習 音楽制作のためのレコーディング
第6回	11月12日	16:00~19:30	※ 質問調査実施 振付・指導・ダンス練習・即興練習
第7回	11月14日	16:00~19:30	ダンス部員で一部創作 振付・指導・即興練習
第8回	11月15日	16:00~19:30	ダンス部員で一部創作 振付・指導・即興練習
第9回	11月16日	13:00~16:00	屋外での振付・指導・撮影 衣装のデザインはほぼ決定
第10回	11月19日	16:00~19:30	振付・指導及び即興表現の練習。
第11回	11月21日	16:00~19:30	振付・指導及び即興表現の練習。
第12回	11月22日	16:00~19:30	振付・指導及び即興表現の練習。
第13回	11月23日	13:00~15:00	屋外での振付・指導・撮影
第14回	11月25日	16:00~19:00	振付終了。微調整と飾り込み(高校生は定期試験中)
第15回	11月26日	16:00~17:30	通し稽古・修正・飾りこみ 衣装合わせ
第16回	11月28日	16:00~17:30	通し稽古・修正・飾りこみ
第17回	11月29日	16:00~17:30	通し稽古・修正・飾りこみ 衣装合わせ
第18回	12月2日	13:00~14:30	衣装を着て通し稽古・修正・飾りこみ
第19回	12月3日	13:00~14:30	衣装を着て通し稽古・修正・飾りこみ
第20回	12月5日	13:00~14:30	衣装を着て通し稽古・修正・飾りこみ
第21回	12月6日	13:00~17:30	※ 質問調査実施 衣装を着て通し稽古・修正・飾りこみ

から5の〈当てはまる〉の5段階とした。(資料1. 指導者との関係性についての質問紙)

## 2) DWに対する満足度についての質問紙

「DWの時間がとても楽しみである」「DWにはいつも意欲的に取り組んでいる」など、DWに対する満足度を図る質問項目5問に対して、回答は1の〈当てはまらない〉から5の〈当てはまる〉の5段階とした。(資料2. DWに対する満足度についての質問紙)

## 4 分析方法

分析ソフトには、SPSS (Ver. 14.0J, IBM社製、東京) を使用し、Spearmanの順位相関係数の有意性の検定、Wilcoxonの符号順位検定を行った。指導者との関係性11項目、および、DWに対する満足度5項目のDWの初期と終了時の2回の回答について、評定値の変化における有意差を検討するためにWilcoxonの符号順位検定を行った。DWに対する満足度と指導者との関係性の相関についてSpearmanの順位相関係数の有意性の検定を行った。

## 結果

### 1 指導者との関係性とDW満足度の質問項目に対する回答分布 (図1, 2)

指導者との関係性について得られた有効回答者数は29名、DW満足度については30名であった。

指導者との関係性に関する項目については、「①身体言語を通し傾聴する」、「⑥指導者の優れた所を認める」に対してDWの初期と終了時ともに8割程度の肯定的な回答(〈当てはまる〉、〈やや当てはまる〉)を得た。一方、「②指導者に認められていると感じる」、「⑦落ち込んで長引かない」など

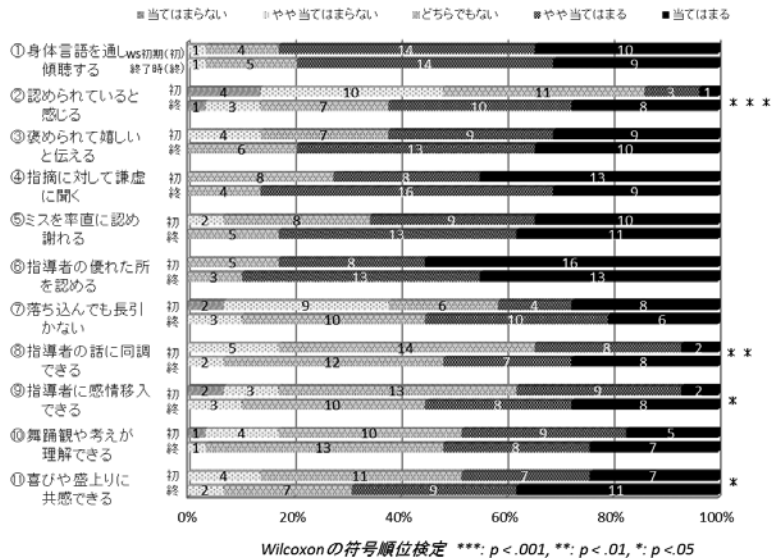


図1 指導者との関係性項目のDW初期と終了時の比較

では、特にDW初期において、否定的な回答(〈やや当てはまらない〉、〈当てはまらない〉)も少なからずみられた(それぞれ14名、11名)。しかし、DW終了時では、ほぼ全ての項目において否定的な回答は減少し、「②指導者に認められていると感じる」の4名が最大回答数となっている。

DW満足度については、5項目全てにおいて、DWの初期終了時に関わらず、8割程度が肯定的な回答(〈当てはまる〉、〈やや当てはまる〉)をし、否定的な回答はDW初期の「(2)満足」に対して〈やや当てはまらない〉と答えたものは1名のみであった。

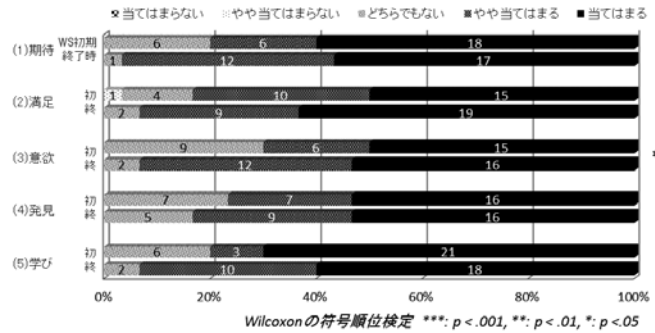


図2 DW満足度項目のDW初期と終了時の比較

## 2 指導者との関係性とDW満足度それぞれにおけるDW初期と終了時の比較

DWの初期と終了時の比較では、指導者との関係性は、「②指導者に認められていると感じる」「⑧指導者の話と同調できる」「⑨指導者に感情移入できる」「⑩指導者の喜びや盛り上に共感できる」の4項目が有意に高くなった。(表2参照) DW満足度については、「(3)意欲」が有意に高くなった。(表3参照)

表2 「指導者との関係性」におけるDW初期と終了時の比較(終了時-初期)

学習者における指導者との関係性項目	n	平均ランク	順位和	Z値	
①身振りや声の調子にも注意して聞いている	-の順位	4	4.38	17.5	-0.632
	+の順位	3	3.50	10.5	
②自分や隣りを認められていると感じる。	-の順位	0	0.00	0	-4.104 ***
	+の順位	21	11.00	231	
③褒められたらうれしいと伝えられる	-の順位	6	8.50	51	-1.908
	+の順位	13	10.69	139	
④問題点や指摘を謙虚に聞く耳を持っている	-の順位	6	5.50	33	0.000
	+の順位	5	6.60	33	
⑤ミスは認め、謝ることができる	-の順位	4	6.00	24	-1.615
	+の順位	9	7.44	67	
⑥悔れたところは認めることができる	-の順位	7	7.00	49	-0.277
	+の順位	6	7.00	42	
⑦落ち込むことがあってもながびかせない	-の順位	6	11.67	70	-1.331
	+の順位	14	10.00	140	
⑧喋り方や言葉遣い、スピードにあわせられる	-の順位	3	7.50	22.5	-2.738 **
	+の順位	14	9.32	130.5	
⑨期待や関心、思いや感情をイメージできる	-の順位	5	6.80	34	-2.310
	+の順位	13	10.54	137	*
⑩誰かに対する思いや考え方が理解できる	-の順位	4	7.50	30	-1.886
	+の順位	11	8.18	90	
⑪喜びや盛り上がりにあわせられる	-の順位	4	6.50	26	-2.288 *
	+の順位	12	9.17	110	

Note. \*\*\*:  $p < .001$ , \*\*:  $p < .01$ , \*:  $p < .05$  Wilcoxonの符号順位検定

表3 参加者の「満足度」におけるDW初期と終了時の比較(終了時-初期)

満足度項目	n	平均ランク	順位和	Z値	
(1)期待	-の順位	6	8.83	53	-0.842
	+の順位	10	8.30	83	
(2)満足	-の順位	4	8.38	33.5	-1.602
	+の順位	11	7.86	86.5	
(3)意欲	-の順位	2	5.50	11	-2.138 *
	+の順位	9	6.11	55	
(4)発見	-の順位	5	8.10	40.5	-0.369
	+の順位	8	6.31	50.5	
(5)学び	-の順位	7	8.07	56.5	-0.215
	+の順位	8	7.94	63.5	

Note. \*\*\*:  $p < .001$ , \*\*:  $p < .01$ , \*:  $p < .05$  Wilcoxonの符号順位検定

## 3 指導者との関係性とDW満足度の相関

### 1) DW初期の、指導者との関係性とDW満足度の相関

指導者との関係性項目「①身体言語を通し傾聴する」は、DW満足度の「(1)期待」「(2)満足」「(3)意欲」と有意な相関があった。指導者との関係性項目「③指導者に褒められて嬉しいと伝える」は、DW満足度の「(1)期待」「(2)満足」「(5)学び」の3項目と有意な相関があった。さらに、指導者との関係性項目「④自分への指摘を謙虚に聞く」は、DW満足度の「(2)満足」「(4)発見」「(5)学び」の3項目と有意な相関があった。同様に、指導者との関係性項目「⑥指導者の優れた所を認める」は、「(3)意欲」以外の4項目と有意な相関があった。詳細は表

4に示すとおりである。

## 2) DW終了時の、指導者との関係性とDW満足度の相関

指導者との関係項目「①身体言語を通して傾聴する」と「⑩指導者の舞踊観や考えが理解できる」はDW満足度の「(1)期待」「(2)満足」「(3)意欲」「(4)発見」「(5)学び」の5項目全てと有意な相関があった。同様に、指導者との関係項目「⑧指導者の話と同調できる」および「⑪指導者の喜びや盛上りに共感できる」は、DW満足度の「(4)発見」を除く、「(1)期待」「(2)満足」「(3)意欲」「(5)学び」4項目と有意な相関があった。また、DW満足度の「(3)意欲」は、指導者との関係を示す11項目のうち、既に述べた4項目に、「②指導者に認められていると感じる」などの4項目を加えた計8項目と有意な相関があった。最後に、指導者との関係項目「⑥指導者の優れた所を認める」は、DW満足度の「(1)期待」「(2)満足」「(5)学び」と有意な相関があった。詳細は、表5に示すとおりである。

表4 DW初期の「指導者との関係性」と「満足度」とにおけるSpearmanの順位相関係数

DW初期	指導者との関係	①身体言語を通して傾聴する	②認められていると感じる	③褒められて嬉しいと感じる	④自分への指摘を謙虚に聞く	⑤ミスを率直に認め謝れる	⑥指導者の優れた所を認める	⑦落ち込んでも長引かない	⑧指導者の話と同調できる	⑨指導者に感情移入できる	⑩指導者の舞踊観や考えが理解できる	⑪喜びや盛上りに共感できる
満足度												
(1)期待	.384 *	-.061	.385 *	.183	.206	.459 *	.316	.307	.250	.367	.388 *	
(2)満足	.419 *	.111	.507 **	.500 **	.364	.564 **	.260	.339	.363	.353	.459 *	
(3)意欲	.415 *	.045	.318	.278	.085	.216	.206	.063	.032	.362	.279	
(4)発見	.224	.121	.345	.419 *	.229	.477 **	.175	.126	.053	.408 *	.247	
(5)学び	.346	.187	.409 *	.412 *	.206	.502 **	.210	.103	.238	.464 *	.311	

Note. \*\*\*:  $p < .001$ , \*\*:  $p < .01$ , \*:  $p < .05$  n=29

表5 DW終了時の「指導者との関係性」と「満足度」におけるSpearmanの順位相関係数

DW終了時	指導者との関係	①身体言語を通して傾聴する	②認められていると感じる	③褒められて嬉しいと感じる	④自分への指摘を謙虚に聞く	⑤ミスを率直に認め謝れる	⑥指導者の優れた所を認める	⑦落ち込んでも長引かない	⑧指導者の話と同調できる	⑨指導者に感情移入できる	⑩指導者の舞踊観や考えが理解できる	⑪喜びや盛上りに共感できる
満足度												
(1)期待	.405 *	.379 *	.296	.274	.309	.583 ***	.336	.371 *	.370 *	.420 *	.415 *	
(2)満足	.412 *	.301	.225	.278	.301	.528 **	.338	.368 *	.290	.415 *	.435 *	
(3)意欲	.425 *	.534 **	.281	.358	.432 *	.325	.403 *	.513 **	.508 **	.628 ***	.576 ***	
(4)発見	.431 *	.253	.158	.133	.219	.352	.342	.350	.251	.400 *	.347	
(5)学び	.420 *	.201	.147	.173	.255	.459 *	.345	.391 *	.317	.414 *	.366 *	

Note. \*\*\*:  $p < .001$ , \*\*:  $p < .01$ , \*:  $p < .05$  n=29

## 3) DW初期の相関結果(表4)と終了時の相関結果(表5)の比較

指導者との関係性とDW満足度の相関が有意だった項目は、DW初期では17個、終了時では27個とかなり増えていた。特に、DW満足度の「(3)意欲」では、DW初期には指導者との関係項目「①身体言語を通して傾聴する」のみと有意な相関を示したが、DW終了時には、指導者との関係性11項目のうち8項目と有意な相関を示した。とくに「⑧指導者の話と同調できる」「⑨指導者に感情移入できる」「⑩指導者の舞踊観や考えが理解できる」「⑪指導者の喜びや盛上りに共感できる」など、指導者に同調できる、指導者の持つ何らかの特異性を理解できるといった内容との相関が高かった。

指導者との関係項目の「①身体言語を通して傾聴する」では終了時には新たに「(4)発見」「(5)学び」との有意な相関を認めるようになった。同様に、「⑧指導者の話と同調できる」では「(1)期待」「(2)満足」「(3)意欲」「(5)学び」,「⑩指導者の舞踊感や考えが理解できる」では「(1)期待」「(2)満足」,「⑪指導者の喜びや盛上りに共感できる」では「(5)

学び」、そして「②認められていると感じる」「⑨指導者に感情移入できる」では「(1) 期待」との間に新たに有意な相関が見いだせるようになった。

指導者との関係項目「③指導者に褒められて嬉しいと伝える」と「④自分への指摘を謙虚に聞く」では、DW初期においてはDW満足度の3項目と有意な相関がみられたが、DWS終了時には全く有意な相関がみられなくなった。同じく、「⑥指導者の優れた所を認める」では終了時には「(4) 発見」との有意相関が示されなくなった。

## 考 察

### 1 DWにおける指導者と参加者との関係性の変化

#### 1) 指導者との関係性およびDW満足度の質問紙項目に対する回答分布

指導者との関係性に関する項目については、「①身体言語を通して傾聴する」、「⑥指導者の優れた所を認める」に対して、DWの初期と終了時ともに8割程度の肯定的な回答が得られた。このことから、指導者の才能に直に触れた感動や強い興味関心がDWを通して維持されていたことが分かる。また、「②認められていると感じる」、「⑦落ち込んでも長引かない」などでは、DW初期において否定的な回答も少なからずみられたが、DW終了時には、ほぼすべての項目において否定的な回答が減少した。このことから両者の間に、受容的な関係および参加者が前向きになれるような信頼関係が成立していたことが示唆された。

DW満足度については5項目全てにおいて、DWの初期と終了時ともに8割程度の肯定的な回答を得ており、このDWが参加者にとって非常に充実したものであったと評価できよう。

#### 2) 指導者との関係性およびDW満足度それぞれにおけるDW初期と終了時の比較

指導者との関係性については、「②指導者に認められていると感じる」および、指導者の言動や舞踊観、感情などへの共感を意味する3項目がDW終了時に有意に高くなったことから、DWを通して指導者に認められていると感じる自信と安心感などの受容性と、指導者の言動に同調し、感情を共有しようとする共感性が高まったことが確認された。八木<sup>10)</sup>は、身体のリズムによる同期反応が人と人との間の共鳴や共感を体感させる基本的で社会的な経験であると述べており、指導者と参加者の間に同調や感情の共有などの共感性が高まったことは、このDWが、身体を媒介とした交流によって実施されており、八木<sup>10)</sup>の、記述を支持した結果であったといえよう。

DW満足度については、「(3) 意欲」がDW終了時に有意に高くなった。このことから参加者は、DWの過程において直面する自分の課題や目標に対し意欲的に取り組み、達成感を覚えることで満足感を得ていたと考えられる。

### 2 指導者との関係性が参加者のDWに対する満足度を与えた影響

DWの初期と終了時における、指導者との関係性と満足度の相関比較結果から考察する。

指導者との関係性とDW満足度の間に新たな有意相関が示された。そのうちの7割は指導者との関係性がDW満足度の「(3) 意欲」に影響を及ぼしていた。とくに、指導者に同調できる、指導者の持つ何らかの特異性を理解、共感できるといった内容の項目との相関が高かった。こ

のことから、DWを通して、指導者の受容的態度に対する安心感や自信、自己開示や感情をコントロールできる信頼関係、とくに指導者に同調し、感情を共有できる共感的理解などが醸成されたことが、学習意欲を高める要因となったことを示唆した。

指導者との関係項目「①身体言語を通して傾聴する」では、DW初期に満足度の3項目と有意な相関を示したのに対し、「⑧指導者の話と同調できる」ではDW初期には、DW満足度と有意な相関が全く示されず、終了時には一変してDW満足度4項目と有意な相関を示した。この結果について、DW初期に、参加者の指導者の言葉に同調する態度が満足度と関連を持たなかったのは、指導者がインドネシア出身で第二外国語としての英語を話し、必要に応じて通訳も介される状況にあったため、参加者にとっては指導者の話と同調することへの違和感や困難さを抱えていたことが示唆された。また、DW終了時に、参加者が言葉の障害を超えて指導者の話と同調できるようになったことは、DWを通して両者の関係を結ぶ身体言語や、仲間との共感や一体感を味わうことのできるダンスの特性が果たす役割が大きかったのではないかと推察できる。

一方、指導者との関係項目「③指導者に褒められてうれしいと伝える」と「④自分への指摘を謙虚に聞く」では、DW初期においてはDW満足度の3項目と相関がみられたが、終了時には全く相関がみられなくなった。このことから、DW初期には指導者との関係性が未熟であるため、褒められることに対し嬉しさを表現したり、指導者の指摘を聞いて問題解決できたりといった体験を重ね信頼関係を築き始めたことがDW満足度につながったと推察される。実際に指導者は、DW初日から参加者の踊りに対し大いに褒め、感動を表現しており、こうした参加者を激励する態度はDW最終日まで継続された。従ってお互いの信頼関係が形成されるとともに自信を得た参加者が、次なる課題や目標へと意識や関心を自己の内面に移行したため、褒められることが満足度とは直接結びつかなくなったと推察できる。また、「⑥指導者の優れた所を認める」においては、終始一貫してDWに対する満足度に大いに影響を及ぼす要因であったが、終了時に「(4) 発見」との相関が示されなくなった。このことは、今回のダンスDWの形態が影響している可能性が大きい。つまり、参加者にとって最も興味深く新鮮な感動が得られる部分は、指導者が確立したアニメルポップという新たなジャンルにおけるダンス技術や表現方法、振付等であると想定できるが、これらの多くはDW前半に参加者に教示される。その後は享受した振付家の世界を自分の課題と向き合いながら忠実に表現しようと努めるため、DW終了時には、指導者の優れた才能への評価に対し新たな発見とは捉えられなかったと考えられる。むしろ指導者から学んだ新しいジャンルのダンス技術や表現方法を十分に吸収できたという充実感の表れとも捉えられよう。

## 結 論

DWにおける指導者と参加者の関係性の変化において明らかになったことは、参加者が指導者に自分を認めてもらっていると感じる受容的な関係が築かれたこと、および参加者が指導者の言動や舞踊観を理解し、指導者の感情や思いに深い共感を示すといった心通わせる共感的人間関係が醸成されたことであった。DW特有の身体を媒介としたコミュニケーションにおいて、指導者と参加者が共にリズムや呼吸を合わせて踊ることにより一体感や共感が得られるダンスの特性が、こうした結果に寄与したと考えられる。

また指導者と参加者の関係性がDWに対する満足度に及ぼした影響として顕著に表れていたのは、DW期間、終始一貫して維持された、参加者が抱く指導者の優れた才能への評価であった。アウトリーチ活動の特徴でもある「本物に触れる喜びを体験すること」<sup>6)</sup>は、参加者の期待や学ぶ態度に大きく働きかけることが本研究において実証された。また、DWを通して、指導者と参加者の間に共感的人間関係が醸成されたことが、参加者の学習意欲を高めており、満足度に大きく影響を及ぼしていた。この結果から、参加者の学習意欲や満足感を高めるためには、両者間に受容的で共感的な信頼関係を築くことが重要であることが検証された。

### 問題点および今後の課題

本研究では、アウトリーチダンスワークショップにおける指導者と参加者の関係性が、参加者のDW満足度に及ぼす影響について検証した。研究における問題点および今後の課題について以下の事柄が挙げられる。まず問題点について、一つは指導者が海外の振付家であるという特殊な要因を含むことにより、指導者と参加者との間には文化や言葉の壁、またそれを補うための指導者による非言語的行動、さらに必要に応じて通訳を行う第三者の介入があった。そのため、これらの要因が双方のコミュニケーションに与えた影響について詳しく検証する必要性があった。二つ目には、今回実施したアウトリーチプログラムでは、DW終了翌日に舞踊作品を公開するというショージョーイングが設定されていた。そのため、到達目標が存在したことが、参加者の外発的動機づけとなり、研究結果になんらかの影響を及ぼした可能性があることは否定できない。以上の問題点の他に、本来DW満足度の要因となるものは、指導者との関係性の他にも多数存在するため、本研究における限界は明らかである。今後は多様なケースにおける現場の状況を反映した要因分析をはじめ、アウトリーチ活動の意義について実践的な示唆を得ることを課題としたい。

### Abstract

The purpose of this study was to verify how the relationship between an instructor and participants affects the satisfaction level of the participants at a dance workshop.

The dance workshop was 21 series of choreographing and practicing dance performances in one and a half months. Participants were 30 high school students who belonged to the dance club (age 15-16). The participants were asked to answer a questionnaire at the beginning and another at the end of the workshop. The first questionnaire consisted of 11 items related to the relationship between an instructor and participants and the latter questionnaire consisted of 5 items to evaluate their level of satisfaction of the workshop.

The results of analysis showed a strong correlation between the respect for the talented instructor the participants had, and the participants' satisfaction of the whole dance workshop. On the other hand, a receptive and empathetic correlation between the instructor and participants was newly built through the dance workshop, and this motivated the participants in the workshop having a strong impact on the level of satisfaction as well.



These results verified that it is important to establish a good relationship with receptive, empathetic and mutual trust between the instructor and participants, in order to increase the participants' learning motivation and satisfaction.

## 謝 辞

本研究の実施に際し、多大なご協力をいただきました至学館高等学校の酒井正巳校長先生、ダンス部顧問の泉恵美先生、アンケート調査に快くご協力いただきましたダンス部部員の皆様に深く感謝し、御礼申し上げます。

本論文作成にあたり、広島大学大学院医歯科学保健学研究院の笹原妃佐子先生には、調査の分析をはじめ、論文の作成にあたり手厚いご指導を賜りました。ここに厚く御礼申し上げます。

## 注および文献

- 1) 的場康子：「アウトリーチ活動の意義・課題についての一考察」－現代における芸術文化の社会的役割－，Life Design REPORT2, 2003
- 2) 佐川 馨：「公共ホール、その教育資源としての可能性－アウトリーチ活動の視点から－」秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要，第27号，2005
- 3) 前掲書「文化・芸術による地域政策に関する調査研究 [報告書]」平成22年
- 4) 財団法人地域創造「文化・芸術による地域政策に関する調査研究 資料編①」平成22年
- 5) 文部科学省「芸術表現を通じたコミュニケーション教育の推進」(H26/9/16閲覧)  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/commu/1289958.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/commu/1289958.htm)
- 6) 「第65回舞踊学会 大会報告」舞踊学，第36号，pp.115-130, 2013
- 7) 振付家ジェコ・シオンボは、1975年インドネシア出身、幼少の頃より伝統舞踊を学び、ジャカルタ芸術大学にてダンスを専攻する。ダンスカンパニー“JeckoS DANCE”を設立後、数々の振付作品を発表しジャカルタ芸術劇場より振付賞受賞。その後渡米しヒップホップとパプアの民族舞踊とを融合させ独自のスタイル“アニマルポップ”を確立する。国際芸術祭、「あいちトリエンナーレ2013」で招聘した日本公演では「Terima Kos」を発表。アジア中心に欧米各地で活躍を広げている。
- 8) アウトリーチ (Outreach) の語義について、本論文では芸術家・劇場による「普及・活性化活動」という意味で用いる。90年代以降、芸術家が市民の生活の場に積極的に入りこむ「出前」的な活動として起こった。今日では、劇場を市民に開放して行う活動を含め、劇場と市民生活の場との還流を活性化する普及・活性化活動と捉えられる。
- 9) 松井幸太：「高校運動部活動における生徒の内発的動機付け－指導者のフィードバック行動および生徒と指導者の関係に対する生徒の認知からの検討－」スポーツ心理学研究，第41巻，第1号，pp.51-63, 2014
- 10) 八木ありさ：「ダンスセラピーの理論と方法」彩流社，2008
- 11) 菅沼憲治：「セルフ・アサーション・トレーニング」東京図書株式会社，2003
- 12) デビッド・アウグスバーガー著、棚瀬多喜雄訳：「聞く一心通わせるために」すぐ書房，1985

資料1

作成者：坂崎雅子

このアンケートは、舞踊のアウトリーチプログラムにおける研究資料とさせていただきます。

ジェコ氏によるワークショップ（以下WSと記述）に関する質問項目①～⑤について、あなた自身にどの程度当てはまるかを、下記の1～5の尺度を用いて、その数字を○で囲んでください。

当 て は ま ら な い	や や 当 て は ま ら な い	ど ち ら と も い え な い	や や 当 て は ま る	当 て は ま る
---------------------------------	---	---	---------------------------------	-----------------------

- |                    |   |
|--------------------|---|
| ① WSの時間がとても楽しみである。 | 1 . . . . 2 . . . . 3 . . . . 4 . . . . 5 |
| ② WSの内容に満足している。    | 1 . . . . 2 . . . . 3 . . . . 4 . . . . 5 |
| ③ WSには意欲的に取り組んでいる。 | 1 . . . . 2 . . . . 3 . . . . 4 . . . . 5 |
| ④ WSではいつも新しい発見がある。 | 1 . . . . 2 . . . . 3 . . . . 4 . . . . 5 |
| ⑤ WSで学べることが多い。     | 1 . . . . 2 . . . . 3 . . . . 4 . . . . 5 |

④、⑤について、WSで新たな発見や学習があると肯定的に捉えた方は、その内容について詳しくお答えください。

( )

\_\_\_月\_\_\_日

名前

資料2

研究代表者及び作成者：真崎雅子

このアンケートは、舞踊のアウトリーチプログラムにおける研究資料とさせていただきます。

質問項目①～⑩について、あなた自身にどの程度当てはまるかを、下記の1～5の尺度を用いて、その数字を○で囲んでください。

当てはまる  
やや当てはまる  
どちらともいえない  
やや当てはまらない  
当てはまらない

- |                                     |                   |
|-------------------------------------|-------------------|
| ① 指導者の身振りや様子、声の調子などにも注意して聞いている。     | 1...2...3...4...5 |
| ② 自分の存在や踊りを認めてもらっていると感じる。           | 1...2...3...4...5 |
| ③ 指導者にほめられたとき、素直にうれしいと伝えられる。        | 1...2...3...4...5 |
| ④ 自分の問題点や不都合を指摘されても、謙虚に聞く耳を持っている。   | 1...2...3...4...5 |
| ⑤ 自分の過ちやミスは率直に認めて、謝ることができる。         | 1...2...3...4...5 |
| ⑥ 指導者の優れたところは率直に認めることができる。          | 1...2...3...4...5 |
| ⑦ 自分に嫌気が差して落ち込む事があってもそれを長引かせることはない。 | 1...2...3...4...5 |
| ⑧ 指導者の喋り方や言葉遣い、スピードにあわせることができる。     | 1...2...3...4...5 |
| ⑨ 指導者の期待や関心について確認し、思いや感情をイメージできる。   | 1...2...3...4...5 |
| ⑩ 指導者の踊りに対する思いや考え方が理解できる。           | 1...2...3...4...5 |
| ⑪ 指導者の喜びや盛り上がり、自分もあわせていくことができる。     | 1...2...3...4...5 |

\_\_\_月\_\_\_日

名前

